

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名:教育学系・准教授

氏名:内ノ倉 真吾

授業科目名	理科教育特講
研修先(国・地域) 滞在地	ドイツ連邦共和国(ミュンヘン・オルデンブルク)
研修期間	平成30年2月15日(木) ~ 平成30年2月27日(火)
<p>〔研修の成果〕</p> <p>(1) 日本とドイツとの比較を通じた学校教育や理工系教育の考察</p> <p>初等学校(グランドシューレ)1校、中等学校(オーバーシューレ、ギムナジウム)2校を訪問して、合計5時間程度の理科および技術科の授業を見学することができた。学生は、日本の教室環境、授業方法、子どもの様子と比較し、ドイツの学校・授業・教師・子どもに見られる特徴を考察することができていた。また、担当教師にも質問する様子が見られた。教師の許可が得られた授業では、ドイツの中学生に授業で学習していることなどを質問していた。</p> <p>(2) オルデンブルク大学の学生や短期留学生との交流、英語でのコミュニケーション</p> <p>オルデンブルク大学の学生が、学校訪問や大学の施設見学の案内役を果たしてくれ、言語的・心理的なサポートが得られた。また、鹿児島大学からオルデンブルク大学へ短期留学制している学生、鹿児島大学へ短期留学を希望しているドイツの学生とも交流する機会をもつことができ、海外での生活や留学に対する理解と興味関心が高まっていた。</p> <p>(3) ドイツの社会教育施設・自然環境および歴史的・文化的雰囲気への体験</p> <p>ミュンヘンでは、ドイツ博物館を訪問して、体験型科学館の実際を体験することができた。また、ウィルヘルムハーフェンを訪問して、世界自然遺産となっているワッテン海の状況やユネスコの教育施設を見学し、海外での環境教育の一端を学ぶことができた。</p> <p>(4) 地域貢献および地域活性化に資するグローバル人材育成への寄与</p> <p>将来鹿児島県および九州の教員を志望する学生として、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られた。また、ドイツの学校教育および社会教育における理工系教育の実際に触れ、日本および鹿児島でのこれからの理科教育の姿について、国際的な視野を持って考えるきっかけを得ることができた。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>(1) 学習体験の充実のための語学力と教養的知識の修得</p> <p>事前に、日本に滞在するオルデンブルク大学の学生と交流を図り、会話力(主として英語)の養成を図ってきたが、実際的には十分とは言えず、学習体験を充実させるために、語学力や背景的知識の養成が必要だと感じられた。</p> <p>(2) 教員養成カリキュラムにおける海外研修の成果の検証</p> <p>教員養成という観点から、海外研修の成果を実証的に検証する方法等を検討したい。</p>	